

日本における「ホスピタリティ」(hospitality)の受容について

佐々木隆

- ・本受容年表は日本の「ホスピタリティ」の受容状況を確認するために、英語“hospitality”の受容状況、概念としての受容状況を戦後を中心に、『現代用語の基礎知識』、『知恵蔵』、『imidas』、英語辞典類、国語辞典類、『観光白書』、研究書、その他の文献からその使用例を時系列でまとめた。受容年表のまとめ方については以下の通り。

『現代用語の基礎知識』他	英語辞典類 hospitality	国語辞典・外来語辞典類	論文・研究書・記事 ／『観光白書』他
<ul style="list-style-type: none"> ・戦後、ほぼ毎年刊行された『現用語の基礎知識』『知恵蔵』『imidas』を調査することで、その変遷が明確になるのではないかと推測のもと、公開がインターネットになるまでの紙媒体での掲載状況を確認した。 ・『現代用語の基礎知識』(1972年1月)が「ホスピタリティー」の初出。 	<ul style="list-style-type: none"> ・英単語として英和辞典を中心に、その掲載状況を確認した。日本語の訳語の問題や場合により解説的な内容まで取り上げているものもあれば、積極的に掲載した。 ・堀達之助編『英和対訳袖珍辞書』(洋書調所、1862年)が“hospitality”掲載の初出。「好ンデ客ヲハ田ル 旅人ヲ善ク遇スル」(p.374) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典・外来語辞典・カタカナ語等において、日本語としてどの程度定着しているかを見るために、その掲載状況及び日本語としての定着度を見るために掲載した。 ・国語辞典系では松村明編『大辞林』三省堂、1990年4月、初版)「ホスピタリティー」の見出し語がある。 ・カタカナ語・外来語系では松浦林太郎編『片假名でひく外国語辞典』(平凡社、1930年11月)には「ホスピタリティー」の見出し語がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1964年より刊行された『観光白書』に注目した。「ホスピタリティ」への言及は1986年より。 ・戦前における記事を含め、特に1960年代以降に注目した。 ・大学の学部・学科設置にも注目した。1963年には日本初の観光科(東洋大学短期大学部)が設立。 ・専門書や研究書についても積極的に取り上げた。 ・必要に応じてオリンピック、観光関係の法令等についても注目した。

- ・受容年表には掲載しなかったが学術団体等における「ホスピタリティ」の取り扱いについて受容年表の後に掲載した。また、最近の研究書で金子章予「ホスピタリティ研究の基礎(1)」(金子章予編『ホスピタリティ概論—ホスピタリティ研究・教育・産業の現状と未来』(学文社、2024年3月)からは「表1. 日本におけるホスピタリティ研究の主要なテーマ」を掲載した。

- ・「ホスピタリティ」「ホスピリティー」についての掲載や言及については「掲載なし」

「見出し語なし」の情報も必要に応じて記載した。

- これまで筆者が発表してきたものが基礎になっている。

「『ホスピタリティ』とは何か—『広辞苑』と『大辞林』の場合」(『日欧比較文化研究』第 25 号、日欧比較文化研究会、2021 年 10 月)、pp.33-42

「書誌から見る日本の“hospitality”の受容(抄)」(『日本英語文化学会会報』第 15 号、日本英語文化学会、2021 年 11 月)、pp.9-16

「辞典から見る「ホスピタリティ」—国語辞典、英語辞典を中心に—」(『日欧比較文化研究』第 26 号、日欧比較文化研究、2022 年 10 月)、pp.37-52

- 今回はリサーチの結果をまとめることを主眼とした。今後このリサーチを基に、「ホスピタリティ」の受容に関する考察を行う。

- 資料調査におけるおもな施設等

国立国会図書館本館(永田町)及び国際子ども館(上野)

神奈川県立図書館本館(桜木町)

東京都立中央図書館(広尾)及び多摩図書館(国分寺)

武蔵野学院大学・武蔵野短期大学図書館

駒澤大学図書館

早稲田大学中央図書館(高田馬場)、戸山図書館(高田馬場)及び所沢図書館(所沢)

国土交通省 観光白書 <https://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html>

- 『観光白書』については 1963 年に施行された観光基本法に則り、1964 年以降毎年刊行されているが、国立国会図書館では欠号などがあるようで、このため神奈川県立図書館本館など、1964 年以降のものが所蔵されている公立図書館を利用した。同様に『現代用語の基礎知識』、『情報・知識 imidas』も欠号があり、同様に公立図書館で創刊号より確認した。

1 日本における「ホスピタリティ」(hospitality) 受容年表

西暦	『現代用語の基礎知識』他	英語辞典類 hospitality	国語辞典・外来語辞典類	論文・研究書・記事 ／『観光白書』他
1814		本木正栄『語厄利亜語林大成』 ※日本で最初の英和辞典。ここでは hospitality の見出し語はない。		
1862		堀達之助編『英和对訳袖珍辞書』(洋書調所) 好ンデ客ヲハ田ルヲ旅人ヲ善ク遇スルヲ(p.374) ※日本で最初の刊本		
1873		柴田昌吉・子安峻編『英和字彙』(日就社、1月) 好ク客ヲ歓待ス ヲ善ク客ニ會釋スルヲ(p.495)		
1886		嶋田三郎校訂・市川義夫纂訳『英和和英字彙』(如雲閣、1月) 好ク客ヲ歓待スルヲ善ク客ニ會積スルヲ(p.269)		
1888		豊田千達訳『ダイヤモンド英和辞典 挿画訂訳』(武田福蔵、5月) 見出し語なし。 柴田昌吉・子安峻他編『英和字彙』(新古堂書店、7月、再版) 好ク客ヲ歓待ス ヲ善ク客ニ會釋		

		スルヲ (p.215)		
1897		<p>中澤澄男・山中 鉦太郎・島田豊 編『英和字典』 (大倉書店、9 月) 賓客ヲ歓待スル ヲ、善ク客ヲ遇 スルヲ (p.297) 高野岩三郎他 『和英辞典』(大 倉書店、12月) で は 「Motenashi」 の英訳に hospitality は使 用されていない。</p>		
1899		<p>高野岩三郎・山 崎要七郎・高野 房太郎『A new Japanese- English dictionary』(大 倉書店、5月、第 10版)では Motenashi の英 語で hospitality は使用されてい ない。</p>		
1901		<p>和田垣謙三『新 英和辞典』(大倉 書店、11月) 賓客を歓待する と、善く客を遇 すること(p.410)</p>		
1902		<p>神田乃武他編 『新訳英和辞 典』(三省堂書 店、6月) 歓待。厚遇。 (p.489)</p>		
1904			<p>林幸行／南條文 雄増補『国語辞 典』(修学堂、 12月)</p>	

			見出し語なし。	
1909		井上十吉編『新訳和英辞典』（三省堂、3月）では「Kantai」「Motenashi」の英語でhospitalityは使用されていない。		
1910		上野陽一他編『学生英和辞典』（博報堂、11月）懇篤。深切。（p.375）		
1914			勝屋英造編『外来語辞典』（二松堂書店、2月）見出し語なし。	
1915			上田万年他編『日本外来語辞典』（三省堂書店、5月）見出し語なし。	
1920		神田乃武・金澤久編『袖珍英和辞典』（三省堂、4月、大改訂81版）歓待。厚遇。（p.437）		
1927		中島理毅夫『昭和中等英和辞典』（昭和中等会、10月）見出し語なし	大町佳月・野崎小蟹編『現代国語辞典』（岡村書店、4月）見出し語なし。	
1928		斎藤秀二郎『斎藤和英大辞典普及版』（日英社、6月）Kantai〔歓待〕welcome; entertainment;	有馬祐政監修／國語研究會編『新外来語辞典』（富文館、7月、第3版）見出し語なし。	

		Hospitality; fête (p.383)		
1930			松浦林太郎編 『片假名でひく 外国語辞典』 (平凡社、11 月) ホスピタリテ ー hospitality, 歓待 (p.264) 栗津清達編『最 新外来語辞典』 (先進堂書店、 5月) 見出し語なし。	
1931				鈴木梅四郎『日本医 業経営法の革新』(研 文社、10月) ※『六』ホスピタリ チーの支持者」の小 見出しあり。
1933		岡倉由二郎編 『初級英語辞 典』(研究社、11 月) 厚遇、歓待。 (p.275)		
1940				「閑却出来ないホス ピタリティー ーラ ルフ・ヒッツのホテ ル哲學」(『観光』第 8巻第1号、日本日本 観光連盟、1月) ヒッツ氏に依れば、 この好成績も格別偉 大なる目新しい方針 を最小した結果では ないのである。他の 多くのホテル・メン が閑却して来た處に 目を付け、従来 of 消 極的ホスピタリテ ーの因襲を打破した いに過ぎない。ヒッ ツ氏経営法にはその 如何なる細部をとつ て見てもセールスマ

				ンシップが窺はれる。つまり非常な敏感さを以てお客の慾望を満足させ、快してお客様の居心地を悪くさせないいふショウマンシップとも謂ふ可きものである。(永田譯) Hospitality Becomes Big Business — <i>Reader's Digest.</i> (p.55)
1941			上田万年・松井簡治『大日本国語辞典』(富山房、2月、第5卷修訂) 見出し語なし。 荒川惣兵衛『外来語辞典』(富山房、6月) 見出し語なし。	
1942		山本三郎『標準中東英和辞典』(純正社、5月) もてなしのよいこと、歓待。 (p.374)		
1946		竹原常太『スタンダード和英辞典』(大修館書店、11月、第21版) Kantai (歓待) hospitality; welcome; hospitable treatment; a warm reception (p.493)		
1948	『現代用語の基礎知識』(創刊号) (時局月報社、11月) 掲載なし。	三省堂編輯所編『集約英和辞典』(三省堂、7月、第7版) もてなしのよいこと。歓待。 (p.137)	新國語研究会『簡明國語辞典』(教學研究社、11月) 見出し語なし。	
1949	『現代用語の基礎		西澤秀雄『最新	獅子文六「てんやわ

	知識』（時局月報社、5月）掲載なし。 『現代用語の基礎知識』（時局月報社、12月）掲載なし。		國語辞典』（日本通信教育會、1月） 見出し語なし。 藤原惠編『新聞語辞典』（朝日新聞社、12月） 見出し語なし。	んや』（『毎日新聞』1948年11月22日～1949年4月14日） のうちの1949年3月25日 「水落ちて石露わる（二）」のうち 女性はその肉体を献げて、ホスピタリティ（親切）を表現するなんて、考えられるだろうか。 獅子文六『てんやわんや』（新潮社、7月） 「水落ちて石露わる」のうち 女性はその肉体を献げて、ホスピタリティ（親切）を表現するなんて、考えられるだろうか。（p.239）
1950		開拓社編集所編『新中等英和辞典』（開拓社、4月、再版） もてなしのよいこと、歓待。 （p.374）		
1951	『現代用語の基礎知識』（自由國民社、1月）以降同じ。 掲載なし。			獅子文六『てんやわんや』（新潮文庫、新潮社、6月） 「水落ちて石露わる」のうち 女性はその肉体を献げて、ホスピタリティ（親切）を表現するなんて、考えられるだろうか。（p.225）
1952			金田一京助他『明解国語辞典』（三省堂出版、4月、改訂版） 見出し語なし。	高田寛「スイス・ホスピタリティー」（『国鉄線』第7巻第38号、交通協力会、7月） 「スキス・ホスピタリティー」、一寸日本語にピッタリと来る適訳と見出し難い

				が、真心を以て親切に外国の旅行のお世話をするという意味であろう。観光国瑞西には余り大金を投じた観光施設も見当たらない。然し海外から来る観光客は美しいこの国の風景に浸り乍ら気持よく、のんびりと滞在できる。三、四日の予定もついつい一週間滞在になつて終う。明媚な風光に加えて、このスキス・ホスピタリティーがこの國をして偉大な観光国たらしめたのではあるまいか。(p.8)
1953	『現代用語の基礎知識』(10月) 掲載なし。		伊藤文雄編『社会常識 現代用語辞典』(華頂書房、11月) 見出し語なし。	片山広子『燈火節』(暮らしの手帖社、6月) 「あけび」のうちお茶を出すといふことが昔から日本人のホスピタリティーであつて、奥さんみづから立派な古めいたきょうすに銀びんのお湯を注いで替へてくれるお茶は大へんなホスピタリティーにちがひない。(p.85)
1954			広田栄太郎・松尾拾『最新標準国語辞典』(新見出版社・啓林館、4月) 見出し語なし。	
1955			新村出編『広辞苑』(岩波書店、5月、初版) 見出し語なし。 上飯坂好実編『学習国語辞	

			典』(東雲堂、5月) 見出し語なし。	
1956			荒川惣兵衛『外来語辞典』(弘文堂、1月) 見出し語なし。 朝日新聞社編『新聞語辞典1956年版』(朝日新聞社、7月) 見出し語なし。	
1957	『現代用語の基礎知識』(3月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。		朝日新聞社編『新聞語辞典1957年版』(朝日新聞社、6月)見出し語なし。	
1958		福原麟太郎編『研究社新スクール英和辞典』(研究社辞書部、1月、改訂新版) 親切なもてなすこと; 歓待、厚遇。(p.603) 島村盛助他『岩波英和辞典』(岩波書店、4月、最新版) 歓待、手厚いもてなし; (pl.) 親切 (p.434) 佐々木高政編『学習英和辞典』(金子書房、5月) 見出し語なし。	朝日新聞社編『新聞語辞典1958年版』(朝日新聞社、8月) 見出し語なし。	ピエール・ダニノス / 堀口大学訳『見るもの食うもの愛するものへそまがりのフランス探訪』(新潮社、5月) 「VII ホスピタリティーと洋食の掟」(pp.77-88) ※ Pierre Daninos. <i>Carnets du Major Thompson</i> の翻訳。
1959		三省堂編修所編『最新明解英和辞典』(三省堂、3月、第2版) もてなしのよいこと。 歓待。(p.413)		1964年の東京オリンピック開催決定(5月26日)

1960	『現代用語の基礎知識』(9月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。	町野静雄編『学習英和辞典』(紀元社、5月) 親切なもてなし、歓待 (p.248)	朝日新聞社編『新聞語辞典1960年版』(朝日新聞社、6月) 見出し語なし。	『Hotel Review』(第122号、日本ホテル協会、6月) 鈴木博「欧州の旅(十五) スイス・ホスピタリティ(一)」 (pp.15-17) 『Hotel Review』(第123号、日本ホテル協会、7月) 鈴木博「欧州の旅(十六) スイス・ホスピタリティ(二)」 (pp.20-22)
1961	『現代用語の基礎知識』(5月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。 『現代用語の基礎知識』(9月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。		朝日新聞社編『新聞語辞典1961年版』(朝日新聞社、6月) 見出し語なし。	大平善悟編『法学の知恵』(世相と法律シリーズ: 1961年版、井上書房、5月) 植田捷雄「サザン・ホスピタリティ(アメリカの思い出)」(pp.73-80) 阿川弘之「ホノルルまで」(大宅壮一・桑原武夫・阿川弘之編『世界の旅[1]日本出発』中央公論社、11月) のちになって私は、ハワイヤン・ホスピタリティという言葉があることを知った。訳せばそれは、ハワイ流のもてなしということであろうが、無償の一種底抜けの親切という意味をふくんでいるらしい。私は、藤倉のおばあさんを知り、滝岡夫妻を知ったことで、最も代表的なハワイヤン・ホスピタリティを経験することになったようであった。それ以後私は、その居心地のいい便利な離れ

				で、毎日十三時間ぐらい寝て、文字通り夢見心地の、怠惰なハワイの一月を過ごした。(pp.34-35)
1962	『現代用語の基礎知識』(11月) 吉田健一「外来語の小事典」では掲載なし。		朝日新聞社編『新聞語辞典1962年版』(朝日新聞社、7月) 見出し語なし。	
1963	『現代用語の基礎知識』(5月) 吉田健一「外来語の早わかり辞典」では掲載なし。	稲村松雄編『例解初級英和辞典』(小学館、4月) 見出し語なし。 稲村松雄・梶木隆一編『ユニヴァース英和辞典』(小学館、4月、改訂版) [旅行者・客などを]親切にもてなすこと、厚遇 (p.285)		東洋大学短期大学部観光科(4月) ※日本で最初の観光学科 観光基本法(6月)では「ホスピタリティ」の表現なし。 『Hotel Review』(第158号、日本ホテル協会、6月) 岡崎冬彦「悲哀感とホスピタリティ」(pp.8-9)
1964	『現代用語の基礎知識』(1月) 吉田健一「外来語・早わかり辞典」等、掲載なし。		朝日新聞社編『新聞語辞典1964年版』(朝日新聞社、6月) 見出し語なし。	内閣総理大臣官房審議室編『観光白書昭和39年版』(大蔵省印刷局、4月) ※1963年の観光基本法により1964年より『観光白書』の刊行が開始される。「Ⅲ外客の誘致及び外客受入体制の状況」では「ホスピタリティ」への言及はない。1986年より言及されるようになる。 東京オリンピック(10月10日～10月24日)
1965	『現代用語の基礎知識』(1月) 吉田健一「外来語・早わかり辞典」等、掲載なし。	研究社辞書部編『高校英和辞典』(研究社、1月) もてなし、歓待	佐藤務『現代用語辞典』(むさし書房、6月) 見出し語なし。	兼松保一『野外活動ーキャンプとユース・ホステル』(ベースボール・マガジン、5月)